パリ五輪　選手のジャケットデザインは全員違った

NIKKEI The STYLE

The STYLE　フォローする

2024年12月31日 5:00

保存



アシックスの大堀亮さん（右）とハトラの長見佳祐さん。ポディウムジャケットの開発は東京大会終了後にスタートしたという

グラデーションの模様は選手1人ずつ違うーー。パリ五輪・パラリンピックで日本代表選手が表彰台など公式の場で着用したジャケット。名前を「ポディウムジャケット」という。五輪閉会後も各地で実施されている凱旋パレードで着ていることが多いが、よく見ると、全員その柄が異なるという。こだわりは模様だけにとどまらない。

生地からファスナーの細部まで、ジャケットには機能や技術、アイデアがたくさん盛り込まれていた。



ポディウムジャケットを着て表彰式に臨んだフェンシング女子サーブル団体の選手ら=目良友樹撮影

赤とオレンジのグラデーションは「パリの日の出をイメージしている」。ジャケットの制作を担当したアシックスのアパレル・エクィップメント統括部開発部のマネジャー、大堀亮さんは説明する。「一緒に見えるけれど、実は一着一着違う。ダイバーシティーの表現になった」。どういうバランスにすれば、全体としては統一感があり、それでいてそれぞれが違う柄になるのか。「コンピューター上で3Dでシミュレーションした」というのが、制作に協力したファッションデザイナーの長見佳祐さんだ。自身のブランド「HATRA（ハトラ）」では、3Dや人工知能（AI）などのデジタル技術を活用してデザインしている。3D技術を用いることで「2D（平面）と比べて、より完成形に近いかたちで試行錯誤できる。簡単にいうと、（コンピューター上で）よりたくさん失敗ができる」そう。理想のグラデーションの配置や色の濃さを求めて、何度も試行錯誤を繰り返した。

アスリートが着用するものゆえ、もちろん体の調子を整える機能にも優れている。東京大会の際は、酷暑においていかに快適に着用できるかが求められたが、パリでは「夏とはいえ、一日のなかでも寒暖差がある。ひとつのアイテムでいかに違った環境に対応できるか」（大堀さん）を追求した。体のなかで、発汗しやすいところ、温度が上がりやすいところなどを解析した「アシックスボディサーモマッピング」をもとに、どの部位にどんな素材を配置すれば、衣服内の環境を快適に保てるかを探っていった。例えば、脇や背中にメッシュパーツを配置し、生じる熱を効果的に排出する。



脇の部分にはメッシュ生地を配置。生じた熱を効果的に排出する仕様にした

一般的な洋服の型紙は、前身ごろ、後ろ身ごろ、袖といったパーツに分かれているが、ジャケットの背中側を見ると、それとは異なると気づく。肩の部分が腕までつながっているのだ。動きやすさを念頭に置きながら「これまでの型紙とは違う新しいかたちを3D技術を用いて検討していった。全体的に直線的な型紙を組み合わせて、立体的な人間の体にフィットさせている」と長見さんは話す。

直線を意識したのは、無駄を減らすことにもつながるからだ。曲線と比べ、直線的な型紙のほうが、生地を裁断した際に、廃棄しなければならない部分を少なくできる。リサーチの段階では、廃棄部分を極力減らしながら体にフィットする型紙を自動製作するシステムを開発したシンフラックス（東京・中央）も参加しており、「技術や知見を参考にした」（長見さん）という。

ジャケットをめくると、「8.8kg」の数字が内側に現れる。アシックスの基準ではあるが、原材料の調達から、製造、使用、廃棄までの工程における二酸化炭素（CO2）の排出量を記載した。フットウエアではすでに取り入れられているが、アパレルでは初めて。算出方法が異なるため単純比較はできないが、環境省によると、服1着あたりの排出量は平均25.5キログラム（原材料調達から製造まで）とされ、このジャケットはかなり低いことが分かる。型紙をはじめ、常に排出量の低減を意識しながら制作したといい、メイン素材のリサイクルポリエステルだけでなく、ファスナーの材料、

付属物など「使えるものは全てリサイクル材を用いた」と大堀さんは話す。さらに縫製は、再生可能エネルギーで稼働する福井の自社工場が担当した。

五輪期間前後には、同様の仕様のジャケットが公式ライセンス商品として発売された。8万300円の高額にもかかわらず、あっという間に完売したという。「トップオブトップのスポーツの競技大会は究極のテストフィールドでもある」と大堀さん。「一般の人にも開発されたプロダクトを身近に感じてもらえるように」と様々に生かしている。例えば、ジャケットのファスナーは、よく見ると通常ファスナーには欠かせないテープ生地がない。特殊なミシンを用いて、樹脂の部分を生地に直接縫っているのだ。材料が減るので、その分CO2の削減につながるだけでなく、動きが非常に軽くなり、ストレスなく開閉できる。厚みも減るため、デザインもすっきりとみえる。このファスナーはすでに店頭に並ぶ商品にも搭載されているという。



ファスナーにはテープ生地がなく、樹脂部分を直接縫い付けている。開閉しやすく、すっきり見える

「グラデーションの赤の濃さが1%違うだけで、何かを塗りつぶしてしまうことになるんじゃないか」——。開発中、長見さんはそんな思いが強かったという。意識したのは「服本位にならないように。当然、新しくなきゃいけないし、見栄えのするものでなければいけない。でも、それが選手の個性を塗りつぶしてしまうようなものになってはいけない。あくまで選手個人が輝いて見えるように」。常にそう考えていたという。

井土聡子

「NIKKEI The STYLE」のX（旧Twitter）アカウントをチェック

■NIKKEI The STYLEは日曜朝刊の特集面です。紙面ならではの美しいレイアウトもご覧ください。
■取材の裏話や未公開写真をご紹介するニューズレター「NIKKEI The STYLE 豊かな週末を探して」も配信しています。登録は次のURLから
https://regist.nikkei.com/ds/setup/briefing.do?me=S004

詳しく見る

保存

[The STYLE](#)

フォローする

日経独自の視点で、ファッション、グルメ、アート、カルチャー、旅など上質感のあるテーマをカバー。写真を大胆に使った美しいビジュアルで、読者の知的好奇心を刺激します。

- パリ五輪　選手のジャケットデザインは全員違った（5:00）
- 今年のファッション界　デジタル浸透、東大講義に脚光...（30日）

こちらもおすすめ(自動検索)

今年のファッション界　デジタル浸透、東大講義に脚光...

30日



サステナ素材や盗撮防止…五輪にアシックスやミズノの技

7月30日



宇多田ヒカルさんが着る　日本生まれの新素材と技術

8月18日



宮崎のデサント工場、超音波「接着」の競泳水着　パリ五輪

7月31日

関連企業・業界

企業：#アシックス

関連キーワード

#パリ五輪・パラリンピック　#ポディウムジャケット　#システム開発　#グラデーション

速報ニュース

9:00　転換点の九州・沖縄　インバウンドや半導体、活況に沸く

8:40 更新 「マルサ」描いた欲望、就職戦線掟なし 銀幕の戦後80年

8:27 トランプ氏の控訴棄却 性的暴行認定の民事訴訟

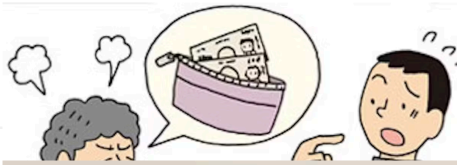
8:01 NY円相場、続伸 1ドル=156円80〜90銭 米景気の減速示す指標受け円買い

7:16 米財務省がハッキング被害 「中国関与の重大事案」

アクセスランキング

9:00 更新

1. 5年後もっと豊か? 「YES」日本だけ半数割れ、2600人調査
2. NISA最大の敵は「売る誘惑」 長期保有へ資産配分点検
3. 映画「砂の器」の警鐘は今も 拭いがたい非科学的な偏見
4. 株高イヤーの日本、「脱デフレ・東証改革・新NISA」が3本柱
5. NYダウ続落418ドル安 利益確定売り、ナスダックも続落



AI半導体の勢力図変える日本の技術

BizGate



ドイツの老舗が手掛ける携帯爪切り

PR 未来ショッピング



日経電子版の記事を英語でリスニング

PR スキルアップ



全国のワークスペースを利用できる

PR NIKKEI OFFICE PASS



二宮和也氏ほか　時と時計への思い

THE NIKKEI MAGAZINE



「社外取締役」に興味はありませんか

PR 日経転職版



セレクション

未来面「あなたが世界に届けたいものは何ですか？」
読者のアイデアとNIPPON EXPRESS ホールディングス社長の講評（12月23日）

日経優秀製品・サービス賞2023
素材けん引　「コロナ後」対応　35点を紹介

NIKKEI ニュースレター
日経電子版が提供するニュースレターサービス「NIKKEI Briefing」などのご登録はこちら

BSテレ東
「NIKKEI NEWS NEXT」「NIKKEI 日曜サロン」編集委員・記者らがニュースを解説

トレンドウオッチ

新着注目ビジネスライフスタイル
新着注目ビジネスライフスタイル
新着注目ビジネスライフスタイル